

## 変化の彩り



先日、三宅島の穏やかな夕暮れ時、アオリイカを釣る機会に恵まれました。空がゆっくりと茜色に染まり、太陽が名残惜しそうに地平線へと沈んでいく「夕まずめ」。この時間帯は、海の生き物たちが活発になるといわれています。そんな折、私の竿にひらりと掛かったのは、透き通るような姿のアオリイカでした。



釣り上げたそのイカは、見る間に体の色を変えました。温度や刺激に反応して繊細に色を映し出す様子は、まるで周囲の世界をそのまま映し取る鏡のようでもあり、海の命の神秘をそっと教えてくれているようでもありました。

調べてみると、イカの皮膚には「色素胞」と呼ばれる器官があり、光や熱に応じて瞬時に色彩を変えることがでるそうです。この仕組みは、イカの肝臓から抽出されるコレステロールをもとにした「コレステリック液晶」の技術にもつながっています。1980年代に流行した温感シールや、指の温度で色が変わるグッズの中にも、この原理が生きています。そういえば、夢中になって集めたあのビックリマンシリーズのシールも指でこすってると模様が変わるのもあったなあ…。温度で色が変わる手袋があったなあ…。とか。いかんせん、子供の頃の記憶ですので定かではなく、墨ません。いや、すみません。まじめに続けます。

さて、本校では現在、どの学年も運動会に向けた練習に一生懸命に取り組んでいます。まだ朝露の残る校庭に元気な声が響き、かけっこに表現種目に、思い思いの力を注いでいます。最初は照れや戸惑いが見られた子も、日を重ねるごとに仲間の声に背中を押され、自然と動きにリズムが生まれてきました。先生の動きをよく見てダンスの振り付けを覚える姿、真剣な眼差しでスタートの合図を待つ姿、中学生と一緒に緊張しながらも開閉会式の司会練習をする姿。どれもが、子供たちの「今」を鮮やかに映し出しています。教室に戻る頃には、頬が赤く、汗ばんだ顔が晴れやかに輝いています。



目には見えにくいけれど、子供たちの内側で育まれているものがあります。それは、挑戦する気持ちかもしれませんし、仲間を信じる思いかもしれません。努力を続ける強い意志かもしれません。そこには、風や光のように静かに、けれど確かに、一人一人が彩る「成長」があります。



本番の運動会では、これまでの練習の成果をしっかりといかし、子供たちが自分らしく輝く姿を見せてくれることでしょう。これまでの成果が、いかに発揮される一日になりますように、どうぞ当日は、子供たちの頑張りをすみずみまでご注目ください!!